

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103373		
法人名	有限会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホームすずらん内原	ユニット名:	ほほえみ
所在地	和歌山市 内原634-1		
自己評価作成日	平成22年9月7日	評価結果市町村受理日	平成22年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3070103373&amp;SCD=320">http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3070103373&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の家族のボランティア活動、プロの歌手による慰問活動、法人、事業所の催し物(祭り、音楽会)で地域の方々と交流を図っている。施設内に菜園があり、四季折々の野菜を栽培し、利用者、職員で収穫して食卓に並んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>正面玄関を入ると、事務所を挟んで左右に1ユニットずつ配置されたホームがあり、すぐ隣にはデイサービスも設置されている。入居者は建物内を自由に行き来しながら、ゆったりとした生活を送っている。どの職員も明るく、一人ひとりの思いを大切にしながら、それぞれの能力が発揮できるようなケアを心がけている。2年ほど前から入居者や職員の入れ替わりが続いたため、現在は職員と入居者の関係づくりに特に力を入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとは何かを職員に浸透するように日々の実践の中で伝えてはいるが、共有できているとはまだまだいえない。	理念は数年前にユニットごとに作成された。どちらにも「その人らしく生活する」内容が掲げられているが、「地域の中での暮らし」がイメージできる地域密着型サービスとしての内容は含まれていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえて「地域の中での暮らし」がイメージできる理念を作り上げることが期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入で地域の清掃活動をしたり、事業所の催し物(音楽会、祭り)に参加して頂くことで利用者と交流を図っている。地域のボランティアを募っている。	地域の一員として自治会に加入している。ホーム周辺に新しく立ち並んでいる民家は自治会に加入しない家庭も多く、地域での催し物も少ないが、3カ月に1度の地区の清掃活動には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症の理解を深めていける様に相談の窓口を設けようと話し合いをしているが実行には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーに会議の意義を伝え、利用者の状況を報告し、利用者家族の意見を聞きサービス向上に努めているが他メンバーへこれから働きかけが必要である。	会議には自治会・民生委員・地域包括支援センター・業者・家族とホームの管理者・ケアリーダーが参加し、活発な意見交換がなされているが、今年度は2回の開催に留まっている。	形式にとらわれず、地域のいろいろなメンバーの意見を集め活用できるように、構成メンバーに運営推進会議の意義を伝え、開催回数を増やすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まだまだできていないとはいえず、これから協力関係を築いてゆく段階である。	市の関係者とは介護保険の事務手続きでは連絡をとっているが、サービス向上にむけた協力関係はまだ十分に築けていない。	事務手続き以外でも、担当者との協力関係が築けるよう積極的な働きかけを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	続けて内部研修が必要と思われる。安全上、一時的な梗塞が必要な場合は家族への説明を正しく行い、同意を頂いている。	日中、玄関の鍵は掛けていない。身体拘束は可能な限り行わないが、頻回の巡視やセンサーの使用等の工夫をしてもベッドからの転落事故を阻止しにくい入居者には、やむを得ず家族の了解を得て就寝時にベッド柵を使用している。	入居者の状況や心理状態など、転落の原因を更に取り、入居者の拘束排除への取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施した。虐待に関しては現在行われていないが、更に内部研修を実施し意識を高めてゆきたい。		

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用している為、制度の必要性を感じる事は出来ている。しかし、職員全員が制度を理解しているとはいえない為、内部研修が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者が十分に話し合いの場を設け、双方合意の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見を出して頂き易い様な環境、関係作りを行っている。意見が出た時は職員に提示し、運営に反映させている。	最近2年間は入居者や職員の入れ替わりが多かったため、現在は入居者と職員の関係作りを力を入れている。家族からは年に2回開催される家族会の後、個別に意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年に一度全職員に面談の機会を設け、必要な案であれば運営に繋げている。	代表者は月に2回開催されるユニット毎のカンファレンスで職員から意見を聞くようにしている。日々の申し送りの際に提案をするなど、管理者と職員の意見交換の場が持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いを管理者は代表者に伝え、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、法人外の研修へ積極的に参加出来るよう呼びかけており、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問までには至っていないが様々な研修の場で交流の機会を図っている。		

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、ケアマネージャーからあらかじめ情報提供をしてもらい、職員とも十分情報共有をしてから入所に至る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	代表者、管理者が家族の意向を受けとめ、その人らしい生活ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ボランティア、福祉用具、医療等必要に応じたサービスを説明し、本人、家族が希望するサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度の方への関係作りについて模索している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が希望する時には面会に来てもらったり、電話をかける等してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人、教え子が尋ねてきてくれている。外出の際に思い出の場所や馴染みの場所に出かける機会を設けている。	ホームを訪れた昔からの友人に入居者からお礼の手紙をだして馴染みの関係が途切れないよう働きかけたり、外出時に知人宅を訪問できるように支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの工夫をしている。又、職員が介入し、孤立、対立しないよう考慮しながら関わる事ができるよう支援している。		

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも連絡が取れる関係作りを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度のカンファレンスか申し送り等で気付きを話し合い、スタッフの周知を徹底している。	本人からの聞き取りなどの記入に、センター方式も部分的に取り入れ、一人ひとりの思いの把握に努めている。思いがはっきりしない場合は、質問の選択肢を多くして、少しでもその人の思いに近付けるよう気をつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に情報をもらい、ケアする中で疑問を感じた時は相談しヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、引継ぎを徹底し、利用者の総合的な心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの議題と家族の面会でケアについて要望、希望を聞き取り介護計画に反映させている。	本人や家族からの意見を基に検討会議を行い計画を立てている。サービス内容はその人らしいきめ細かなものとなっているが、課題や長期目標、短期目標を明確に把握しにくいところがみられる。	その人に合った課題や長期、短期の目標を的確に記入し、誰が見ても内容が分かりやすい介護計画の作成に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になる状況が生じた場合には記録に残し、職員がその経過を意識し把握したうえで情報を共有し、介護計画の見直しに繋ぎさせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種に相談し、その方に沿ったサービスを提供できる様努めている。		

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民、家族、ボランティア等の支援で利用者の生活の広がりや充実を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が以前通っていた馴染みの医院に継続して主治医になっていただき、適切な医療が受けられる様な体制を整えている。	かかりつけ医の選定は本人や家族の希望を聞くようにしており、どの医師にも往診を依頼している。通院時は家族に依頼するが、緊急時等やむを得ない場合はホームから受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中sでの変化(発熱、皮膚疾患、尿量等)はすぐに法人内の訪問看護ステーション看護師に報告し、指示を仰いでいる。またすぐに処置等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう、医師、家族の連携もとの密に情報交換を行っている。又、すぐに帰苑できる様ホーム内の体制も整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応指針を家族に掲示し、十分話し合う場を設け、納得のいく最後を迎えただけの様支援している。	ホームでの看取りは延命処置をしない方針をとっており、訪問看護で対応できる範囲で行うようにしている。終末期や重度化した場合の対応は入居時に本人や家族に方針を伝え理解を得ているが、状況に応じて話し合うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的に訓練ができているとはいえない。事故報告書作成によって、課題検討、指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での議題として、協力を仰ぐ事をこれから出す予定にしている。災害時非難訓練は年に二回行い、全職員に周知している。	避難訓練は年に2回、さまざまな場面での火災を想定して行っている。ホーム周辺は水害を受けやすい地域であるが、住民との協力体制がまだ十分に整っていない。	過去の水害時の経験を生かし、地域住民との協力関係を構築し、入居者の安全が確保されることを期待する。

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入室には必ず同意を頂いている。また、一人一人が心地よく受け止めてくれるような言葉掛けに努めている。	排泄時の声かけや介護方法を工夫するなど、その人の自尊心を損なわないように配慮している。トイレに個人の名前を記入した尿取りパッドが置かれ、各居室にも、オムツや尿取りパッドが目だつ形で置かれている。	個々の入居者の誇りやプライバシーに配慮し、排泄に関するものは目立たないところに置くような配慮が求められる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行っている。日々の気付きを大切にし、何気ないコミュニケーション等で本人の思いを聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその方のペースで生活できるように支援しているが、十分とはいえない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を大切に髪型、服装、装飾品等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼、嚥下能力に合わせた調理の工夫、又、調理の下ごしらえや味見、後片付け等本人の能力に合わせて一緒におこなっている。	メニューは一人ひとりの希望も聞きながら、職員が決めている。同じ食事を入居者と職員が共に楽しみ、ケアの一環として入居者のできる範囲内で準備や調理や後片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録へ残し、不足や異常の発見に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の手入れをその方個人の能力に応じ行っている。		

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録へ残し、トイレでの排泄が出来るように支援している。オムツを使用している方も日中はパンツに交換し、トイレでの排泄を行っている。	排泄時は事前に誘導して、できるだけおむつに頼らないようなケアを心がけている。紙おむつが必要な場合も、時間帯や状況に合わせた紙おむつを使用し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維を多く取り入れ、調理方も工夫している。毎日、軽い運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を聞き、それに沿った入浴を心身の状態を見た上でやっている。	入浴の回数は週に3回を目安にしているが、希望があれば毎日でも可能である。通常の浴槽での入浴が無理な入居者の場合は、利用できる日は限定されるが、デイサービスのリフト浴を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ在宅で習慣となっていた睡眠時間の確保、日中は適度に心地の良い離床を促し、夜間安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個々の記録へファイリングし、全職員が目的、副作用を周知している。また、薬局との連携、変化があれば主治医へ直ちに報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や園芸等、その人に合った支援をおこなっている。誕生日会を行い、喜んでいただけるように工夫し、外出支援では、本人の希望を取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度は本人が好まれる場所へ外出支援を行っている。日光浴や散歩の支援は日々おこなっている。家族と共に外出支援は全員が出来ているとはいえないが家族と共に楽しめる様な計画を年に数回たてている。	日頃は個々の希望に合わせて、散歩や日光浴などに出かけている。全員ではないが、月に1度はファミリーレストランや回転寿司での外食が楽しめるよう支援している。	

【事業所名】グループホームすずらん内原ユニット名：ほほえみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には所持してもらっている。買物に出かけた時は自分のお金で好きな物を買ひ、社会参加をし、能力を維持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに公衆電話を設置しており、希望がある時は自由に使用している。出来ない場合も職員の介入を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節が感じられる様飾りつけをしている。西日が強く日光を遮断できる様工夫している段階である。	共有空間の壁には、季節が感じられる作品が展示されている。窓からは周囲の風景が見渡せ、季節を感じられる。リビングのあちらこちらにはソファや腰かけがあり、思い思いの場所でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、廊下にソファを設け、ゆったりくつろげる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、好きな装飾品を置き、安心して生活できる空間にしている。カーペット等を敷き、転倒、ケガの予防にも努めている。	居室には馴染みの物が置かれ居心地良く暮らせるようになっている。部屋は畳の部屋もあり、その人の状態や希望に合わせて選べるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に手すりを設置、テープを巻き手すりが見やすいようにしている。また、危険予防の為にフロア内の張り紙(注意)をしている。		